

アクションプラン 3	
重点項目	【体】 健康・体力づくり
重点課題	体育科の「体づくりの領域」と「器械運動の領域」との充実による体力・運動能力の向上と運動の日常化
年度当初の状況	スポーツ少年団や習いごと等で生活の中で運動する習慣がついている児童と、運動をあまりしない児童とに二分されている傾向がある。平成25年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査項目では、敏捷性、全身持久力が優れ、走力、柔軟性がやや不足していた。
達成目標	全国体力・運動能力、運動習慣等調査項目「長座体前屈」「50m走」において、11月下旬までに、6月と比較して体力・運動能力が向上する児童の割合50%以上を目指す。
これまでの取組と達成度	<p>〈方策〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度の体力向上に係る黒部市の方針について、市教セからの報告書や学習指導要領解説体育編を基にして研修し、教員の意識を高める。 ・第2学期末までの履修状況を確認し、指導内容に偏りがないように第3学期の指導を行う。 ・運動の日常化を目指すために体育の授業の「体づくり」の領域を重視した授業改善や業間活動の在り方を見直す。それを「みんなでチャレンジ3015」の状況から検証する。 ・一人一人の教員が指導方法について学び合い、実践できるように学習カードや段階表を共有することで、系統性を重視した授業を行う。(器械運動・なわとび運動) <p>〈達成度〉</p> <p>11月上旬の調査で、「長座体前屈」が6月と比べて上回った児童は47名(70%)、「50m走」が6月と比べて上回った児童は45名(67%)だった。「みんなでチャレンジ3015」は、2月末まで59名(85%)の児童が達成した。年間を通して、体育の授業では「体づくり」の領域を充実させた。冬季は、なわとび練習、長なわ練習を通して、運動の日常化を図った。</p>
評価	<p>A</p> <p>60%以上の児童が、「長座体前屈」「50m走」の記録を向上することができたが、全国平均までに届かない学年が見られた。また、運動する習慣が身に付いている児童とそうでない児童に二分されている傾向が見られる。</p>
外部評者の意見	・健康な体づくりのため、今後も運動の日常化をすすめてほしい。
次年度に向けての課題	業間運動では全校リレーやなわとび運動、日常化につながる運動に引き続き取り組み、体力の向上や運動の日常化を図っていきたい。一方、体育科の学習においては運動の系統性を十分に考慮して、運動能力や技能、活動意欲の向上を目指していきたい。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪化)